

## 第四部 イスラエル民族：主のぶどう畑

### イザヤ5章

□アウトライン

- A) ぶどう畑のたとえ話 5:1~7
- B) 6つの「わざわざ」罪と 4つの「それゆえ」裁き 5:8~25
- C) イスラエルが複数の国々の連合軍に侵略されるという預言 5:26~30

- A) ぶどう畑のたとえ話 5:1~7

#### 1~2節 【イザヤの歌】

「さあ、私は歌おう。わが愛する者のために。そのぶどう畑についての、わが愛の歌を。

➤ わたし→「私」=イザヤ、わが愛する者=主、そのぶどう畑=主のぶどう畑  
わが愛する者は、よく肥えた山腹にぶどう畑を持っていた。彼はそこを掘り起こして、石を除き、そこに良いぶどうを植え、その中にやぐらを立て、その中にぶどうの踏み場まで掘り、ぶどうがなるのを心待ちにしていた。  
ところが、酸いぶどうができてしまった。

#### 3~6節【主のことば】 ここでは、わたし=主

今、エルサレムの住民とユダの人よ、さあ、わたしとわたしのぶどう畑との間をさばけ。わがぶどう畑になすべきことで、何かわたしがしなかったことがあるか。なぜ、ぶどうがなるのを心待ちにしていたのに、酸いぶどうができたのか。

《だれも答えない、沈黙》

さあ、今度はわたしがあなたがたに知らせよう。わたしが、わがぶどう畑に対してすることを。わたしはその垣を取り払い、荒れすたれるに任せ、その石垣を崩して、踏みつけられるままにする。わたしはこれを滅びるままにしておく。枝は下ろされず、草は刈られず、茨やおどろが生い茂る。わたしは雨雲に命じて、この上に雨を降らせないようにする。」

➤ 枝を下ろす=余分な枝を刈り込む、草を刈る=くわで除草する

#### 7節【たとえ話の解説と結論】 → 8~25節の罪の指摘と裁きの預言につながる

**万軍の主のぶどう畑はイスラエルの家。**ユダの人は、主が喜んで植えたもの。

主は公正を望まれた。しかし見よ、流血。正義を望まれた。しかし見よ、悲鳴。

イスラエル民族を「ぶどう畑」にたとえるのは、何を意味しているか？

旧約聖書の中で、イスラエル民族は、2つの用語でたとえられる。一つは、「ヤハウエ（主）の妻」（エゼキエル 16 章）である。そしてもう一つは、「ヤハウエ（主）のぶどう畑」（イザヤ 5 章ほか）である。ここでは、二つめのたとえ、イスラエル民族を「ぶどう畑」にたとえるのは、何を意味しているのかを、説明する。

- a. 詩篇 80：8～11 主がイスラエルをエジプトから引き出し、約束の地に植えた。士師の時代、そして王国となりダビデとソロモン前期までの時代を指す。

あなたは エジプトから ぶどうの木を引き抜き  
異邦の民を追い出して それを植えられました。  
その木のために あなたが地を整えられたので  
それは深く根を張り 地の全面に広がりました。  
山々もその影におおわれました。神の杉の木もその大枝に。  
ぶどうの木はその枝を海にまで 若枝をあのかにまで伸ばしました。

- b. イザヤ 5：1～7 主はイスラエルを良きものとなるように育てたのに、酸いぶどうができてしまった。ソロモン後期以降の時代を指す。

- c. エレミヤ 2：21 主がぶどうの種を選び、主が植える場所を選んだのに、結果はよくない。

わたしは、あなたをみな、純種の良いぶどうとして植えたのに、どうしてあなたは、わたしにとって、質の悪い雑種のぶどうに変わってしまったのか。

- d. エレミヤ 12：10～11 その責任は、イスラエルの指導者層にある。

多くの牧者が、わがぶどう畑を荒らし、わたしの地所を踏みつけて、  
わたしの慕う地所を 恐怖の荒野にした。  
それは恐怖と化し、荒れ果てて、わたしに向かって嘆き悲しんでいる。  
全地は荒らされて、まことに、だれも心に留める者はいない。

この意味を引き継いだのが、マタイ 21：33～45

もう一つのたとえを聞きなさい。ある家の主人がいた。彼はぶどう園を造って

垣根を巡らし、その中に踏み場を掘り、見張りやぐらを建て、それを農夫たちに貸して旅に出た。収穫の 때가近づいたので、主人は自分の収穫を受け取ろうとして、農夫たちのところにしもべたちを遣わした。ところが、農夫たちはそのしもべたちを捕らえて、一人を打ちたたき、一人を殺し、一人を石打ちにした。・・・(中略)・・・祭司長たちとパリサイ人たちは、イエスのこれらのたとえを聞いたとき、自分たちについて話しておられることに気づいた。

- e. 詩篇 80 : 12~19 最終的にイスラエルは神の助けを求め、救われる。17 節の「あなたの右にいる人、人の子」とは、メシアなるイエスである。

なぜ あなたはその石垣を破り  
道を行くすべての者が その実を摘み取るまにされるのですか。  
林の猪はこれを食い荒らし 野に群がるものも これを食らっています。  
万軍の神よ どうか帰って来てください。  
天から目を注ぎ ご覧になってください。  
このぶどうの木を顧みてください。  
あなたの右の手が植えた苗と ご自分のために強くされた枝とを。  
それは火で焼かれ 切り倒されています。  
民は 御顔のとがめによって滅びています。  
**あなたの右にいる人**の上に 御手が  
ご自分のために強くされた**人の子**の上に 御手がありますように。  
私たちはあなたから離れ去りません。私たちを生かしてください。  
私たちはあなたの御名を呼び求めます。  
万軍の神 主よ 私たちを元に戻し 御顔を照り輝かせてください。  
そうすれば 私たちは救われます。

この意味を同様に預言するのは、イザヤ 27 : 2~6

「その日、麗しいぶどう畑について歌え。  
わたし、主はそれを見守る者。絶えずこれに水を注ぎ、だれも害を加えないように、夜も昼もこれを見守る。  
わたしにもう憤りはない。もしも、茨とおどろがわたしと戦えば、わたしはそれを踏みつぶし、それをみな焼き払う。  
あるいは、もしわたしという砦に頼りたければ、わたしと和を結ぶがよい。  
和をわたしと結ぶがよい。時が来れば、ヤコブは根を張り、イスラエルは芽を出し、花を咲かせ、世界の面（おもて）を実で満たす。」

## B) 6つの「わざわい」罪と 4つの「それゆえ」裁き 5:8~25

## 1. 第一の「わざわい」罪 5:8~10

**わざわいだ。** 家に家を重ね、畑に畑を隣り合わせる者たち。

あなたがたは場所を残さず、自分たちだけこの地に住もうとしている。

私の耳に万軍の主は告げられた。

「必ず、多くの家は荒れすたれ、大きな美しい家々も住む者がいなくなる。

10 ツェメドのぶどう畑が1 バテを産し、1 ホメルの種が1 エパを産するからだ。」

- 10 ツェメド=1 くびきの牛が10日かけて耕す面積、1 バテ=23リットル
- 1 ホメルの種が1 エパを産する=230リットルの種で、収穫は23リットル

## 2. 第二の「わざわい」罪 5:11~12

**わざわいだ。** 朝早くから強い酒を追い求め、夜が更けるまで、ぶどう酒に身を委ねる者たち。彼らの酒宴には堅琴と琴、タンバリンと笛とぶどう酒がある。彼らは主のなさることに目を留めず、御手のわざを見もしない。

## 3. 第一の「それゆえ」裁き 5:13

**それゆえ、** 私の民は知識がないために捕らえ移される。その貴族たちは飢えた者となり、その民衆は渴きで干からびる。

## 4. 第二の「それゆえ」裁き 5:14~17

**それゆえ、** よみは喉を広げ、果てしなく口を開ける。エルサレムの威光も、騒音も、どよめきも、そこでの歓声も、よみに落ち込む。こうして人間はかがめられ、人は低くされる。高ぶる者の目も低くされる。

しかし、万軍の主はさばきによって高くなり、聖なる神は正義によって、自ら聖なることを示される。

子牛は自分の牧場にいるように草を食べ、肥えた獣は廃墟にとどまって食をとる。

## 5. 第三の「わざわい」罪 5:18~19

**わざわいだ。** 嘘を綱として咎を引き寄せる者。車の手綱するように、罪を引き寄せる者たち。彼らは言う。「彼のすることを早くさせよ。急がせよ。それを見てみたい。イスラエルの聖なる方のご計画が近づいて、成就すればよい。それを知りたい」と。

## 6. 第四の「わざわい」罪 5:20

**わざわいだ**。悪を善、善を悪と言う者たち。彼らは闇を光、光を闇とし、苦みを甘み、甘みを苦みとする。

## 7. 第五の「わざわい」罪 5:21

**わざわいだ**。自分を知恵ある者と思なし、自分を悟りのある者と思ひ込む者たち。

## 8. 第六の「わざわい」罪 5:22~23

**わざわいだ**。酒を飲むことにかけては勇士、強い酒を混ぜ合わせる事にかけては豪の者。彼らは賄賂のために、悪者を正しいと宣言し、その悪者から正しい者たちの正しさを遠ざける。

## 9. 第三の「それゆえ」裁き 5:24

**それゆえ**、火の舌が刈り株を焼き尽くし、枯れ草が炎の中に溶けゆくように、彼らの根は腐り、その花も、ちりのように舞い上がる。彼らが万軍の主のおしえをないがしろにし、イスラエルの聖なる方のことばを侮ったからだ。

## 10. 第四の「それゆえ」裁き 5:25

**それゆえ**、主の怒りはその民に向かって燃え、これに御手を伸ばして打つ。山々は震え、彼らの屍は、通りで、あくたのようになる。それでも御怒りは収まらず、なおも御手は伸ばされている。

4つの「それゆえ」裁きの預言は、紀元70年に成就した。ローマ軍により、エルサレムと第二神殿が破壊された。

## C) イスラエルが複数の国々の連合軍に侵略されるという預言 5：26～30

主は遠く離れた国に旗を揚げ、地の果てから来るように合図される。

すると見よ、それは急いで速やかに来る。

その中には、疲れる者も、つまずく者もない。

だれ一人、まどろまず、眠らず、その腰の帯は解かれず、履き物のひもは切れない。

その矢は研ぎ澄まされ、弓はみな張られ、馬のひづめは火打石のように、その車輪はつむじ風のように見える。その吼え方は獅子のよう。若獅子のように吼え、うなり、獲物を捕らえる。奪って行くと、救い出せる者はいない。

その日、その民は海のとどろきのように、イスラエルにうなり声をあげる。

地を見やると、見よ、闇と苦しみ。光さえ雨雲の中で暗くなる。

- 遠く離れた国：原文では、「国」は複数形、国々である。
- 旗：ヘブル語でネス。ネスとは、旗、吹き流し、幟（のぼり）の類であるが、軍隊を召集するためのもの。遠くからもよく見える山の上に、長い旗さおを立て、その先に鮮やかな色の吹き流しタイプの旗をなびかせる。
- 主が国々の軍隊を召集し、イスラエルに向かわせる。これは、大患難期末期におけるハルマゲドンの戦いにおける反キリスト軍の召集である（詩 2：2、黙 16：12～16）
- この戦いのあとに続く出来事が、メシアの再臨とイスラエルの2回目の帰還。イザヤの預言では、11：10～12。
- 補足・・・イスラエルの帰還は、2回にわたる
  - 1回目は、不信仰の中での帰還（エゼキエル 20：33～36）。今、すでに起きている。
  - 1回目と2回目の間に、大患難期がある（エゼキエル 20：37～38「むちの下を通らせる」）
  - 大患難期の最後の3日間でイスラエルは民族的に救われて、信仰ある民となる。
  - 2回目は、大患難期の後、信仰をもって帰還する（イザヤ 11：11～12、11節の「再び」は、「2回目」の意味。イザヤ 27：13「大きな角笛が鳴り渡り」＝マタイ 24：31「大きなラッパの響きとともに」。エレミヤ 23：3～4。